



国分小学校（霧島市）

考え、生きる力養う

新聞を活用した授業を通じて考える力や主体的に生きる力を養おうと、2015年度から全学年で取り組んでいる。月1回、朝10分間のNIEタイムが活動の中心。1、2年生は4コマ漫画で空白の1コマのせりふを考える。3〜6年生は記事を読み、自分の思いや考えを表現する。このうち、年3回取り組むのが、家族で記事を読んで感想を述べ合う「ファミリーフォーカス」

だ。2月の5年生の題材は「赤銅色の光」の見出しが付いた皆既月食の記事。深川詠葉さんは「見に行けなかったが、記事を読んですてきだっただろうなどと想像できた」と記していた。

担当の角屋敷修司教諭（38）は「児童の読む速さや読解力が向上したと感じる。必要な情報を取捨し考える習慣を身に付け、生き方の糧にしてほしい」と話した。

（藤崎慎一）

かごしま

NIE実践校



川辺中学校（南九州市）

読み取る力着実に

全学年を対象に、新聞投稿を促し、本紙の「南風録スクラップ帳」を使って語句の意味調べや感想、音読を続けている。より全校的な活動に広げようと、昨年4月から全クラスで毎日、新聞記事を使ったスピーチを始めた。各教科でも新聞を活用する場面を設けた。国語科主任の東まどか教諭は「生徒の思考や表現の力が少しずつ付いてきている」と手応えを語る。

2015年度に新聞で活字に親しむ「よむのび教室」を開き、実践校2年目。3年生は1年時から新聞にふれ「記事を読み取る力が付き、自分の意見を書けるようになった」と西郷みつ子教諭。意見を述べ合い、発表する力も育む。同じテーマで2紙の社説を読み比べ、書き手の意図や主張が違っことも学んだ。

校内アンケートで88%の生徒が「新聞記事がためになっている」と答えたという。（入角里絵子）

興味を持った新聞記事について意見を述べ合う生徒ら

南九州市の川辺中学校